

## B-45 被服工作の時間分析 —和服縫製作業について—

奈良女大被服 水梨サワ子  
京府大短大 ○奥村万亀子

1. 本研究は、現在各種の生産部門において活用されている Time Study の研究を被服工作に適用し、比較的研究の遅れている和服縫製作業の合理化を考究することを目的とした。

2. 資料は、1. 大裁女物単衣長着、2. 大裁女物袷長着、3. 大裁女物袷羽織、4. 名古屋帯をとりあげ、N女子大被服科4回生を作業者とした。

3. 次のような成果を報告する。まず作業を10の作業要素に分類しおのおのについて時間および作業の発生日数をしらべる。作業時間については、資料4の帯を1とした場合、袷長着4.3倍、袷羽織3.6倍、単衣長着3.1倍、作業日数においても帯を1とした時、袷長着5.3倍、袷羽織3.8倍、単衣長着3.5倍となり、各被服形態による作業の重さが数量的に明示された。また、各作業要素について検討してみると、「縫う」要素が最大の時間を要し(但し単衣長着のみは「くける」が最大、「縫う」は2位)次に「待針うち」が多く時間を占め全資料に共通した点である。日数においても「縫う」が最大を示し、袷形式の物では「待針」が次に多くなっている。次に部位別作業時間、日数については、資料1、2、3の比較により特に袖、裾部位で単衣、袷の差が大きく、作業の複雑さの違いがはっきりしている。姿勢別作業時間、日数については、資料1、2、3は立姿勢20%前後、座姿勢の作業が多い。資料4の場合は立姿勢が30%となり、資料の形態による作業の違いが明らかである。